

十和田バラ焼きゼミナール

十和田西高校観光PRセンター



大会が終わって
ゴールではなく、
そこから十和田の
魅力を伝えたい――

MEMO

平成23年に十和田バラ焼きゼミナールから誘いを受け設立。当初は観光科の4人でPRしていました。今では普通科の生徒も参加し、総勢25人で活動しています。

担当する櫻田篤教諭は「活動を通じて生徒が地域を好きになってくれています。バラゼミの皆さんが行っている思いを受け止め、自分たちの次の世代へつなげていくという体験をすることは生徒たちにとって大きいことです」と、話します。

多くの来場者が訪れたB-1グラブリン郡山。各団体が自分たちのブースにお客さまを引き込もうと必死に声を上げる中、すっかりおなじみとなった「ラビアンローズ！」の掛け声が会場の郡山市開成山陸上競技場に響き渡っていました。

元気あふれる掛け声で来場者の注目を集めたのは、県立十和田西高校ゼミナール十和田西高校観光PRセンター（三上幾子校長）。「十和田バラ焼きゼミナール十和田西高校観光PRセンター」の生徒の皆さん。掛け声だけでなく、十和田バラ焼きを焼く係、十和田市をPRする係、ゴミを集める係など、大会中は休む間もないほどお客さまの対応に追われました。

リーダーを務める太田雅人くん（3年）は1年生の11月からPRセンターに参加しました。「十和田バラ焼きゼミナール（通称バラゼミ）のイベントに参加するごとに十和田の良さや活動の意味が分かってきました」と、話します。郡山大会では西村公輔くん（3年）とともにバラゼミのステージPRを任せられ、他のまちおこし団体が大人数でゆるキャラやダンスを交えてPRする中、堂々とパネルを使いながら十和田の魅力を発信しました。

一方、バラゼミのブースの前で来場者に十和田をPRしたのは市澤愛さんと西野菜奈さんの2年生コンビ。「この2日間に363日の思いを詰

め込みました。声が出ない時間帯もあってつらかったけど、やめてはいけないという気持ちでした。来年の大会ではお客さまと会話しながら十和田の魅力を楽しく伝えていきたい」と、笑顔で話しました。

来年、地元十和田市で開催されるB-1グランプリ。十和田西高校観光PRセンターの活動にも大きな期待が寄せられます。生徒会長の高屋友輔くん（2年）は「大会までのいろいろな機会を通じて市民や周辺市町村の皆さんにB-1をやることの意味をきちんと伝えていきたいです。大会だけでなく普段の活動を大事にしていけば、きっと郡山大会以上の盛り上がりを見せてくれると思います」と、力強く話しました。



9月28日に行われたバラゼミ激励大壮行式にも参加。本大会と同様のパフォーマンスを披露しました

